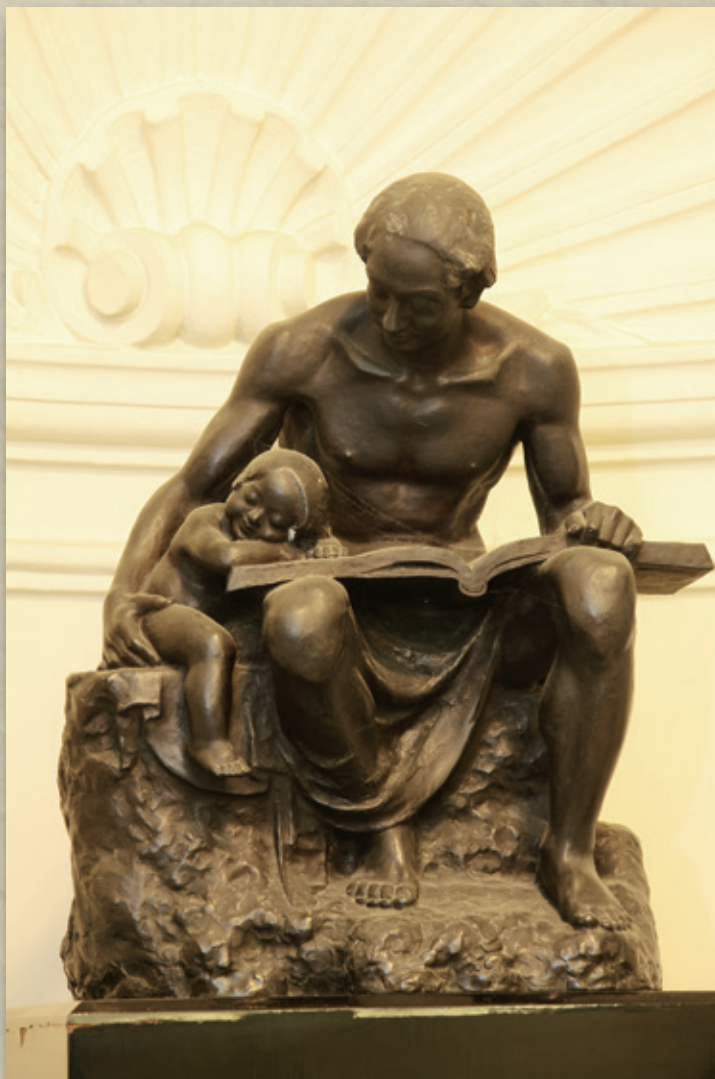


# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 19 号



「愛の像」 間島記念館 1 階正面入口  
彫刻家である横江嘉純氏の作品で、万代順四郎が1930年7月に青山学院に寄贈したもの。この像は、その芸術性が高く評価され、第二次世界大戦時の金属供出を免れた。モデルとなったのは間島弟彦と子息道彦（写真右）と思われる。

青山学院史探訪（インタビュー）

戦時・戦後の青山学院のこと 犀川珠子 — 2

資料センター所蔵資料紹介

『三戸吉太郎案 天地創造圖解 全』 望月宏計 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内ほか — 8

インタビュー

## 戦時・戦後の青山学院のこと

犀川珠子氏（昭和19年青山学院高等女学部卒）

昭和14年から昭和19年まで青山学院高等女学部で学ばれ、卒業後、さらに同女学部の事務職員として奉職された犀川珠子氏に、当時の青山学院についてお話を伺いました。

私は入学してすぐに入院治療のため休学しましたが、クラスは決まっていた担任の安藤鏗子先生が突然病室にお見舞いに来てくださり、緊張しながらも嬉しかったことを覚えています。

戦局が悪化すると同時に、敵国のアメリカの関係する学校として監視が厳しくなり、軍服の兵士がいましたから、学校では滅多なことと言わないようにと話していました。脇屋義人先生には聖書を教えていただきましたが、アメリカに留学していた方ですから、ときどき留学の時の話をしてくださるのです。日本の欠点とか、外国の良さとか。5年生の時でしたが、脇屋先生が「日本人はディスカッションが下手だ。会合の言うべき時に何も言わないで、会が終わってから陰で言う、それは良くない、言うべき意見は会合の席上で臆せずいう。外国では学生はディスカッションが終わるとパッと解散して、陰口は言わない」と話されました。そこで脇屋先生とディスカッションの訓練をすることになりました。当たり障りのないテーマを決めて、例えば「小説は読むべきか、読むべきではないか」とか「映画は観ていいか、観ない方がいいか」などです。まとめ役を2～3人決めて準備し始めていたところに、受け持ちだった神山妙子先生から呼ばれて、「あなたね、今の時代はね、そういう言論の自由が許されない国家なの。倉長久部長先生の耳に入って、ご注意を受けて来ました」とたしなめられたのです。脇屋先生は、「こんなことまでいちいち目くじら立てなくてもいいんだけどね。やな世の中になったものだ」と仰っていました。

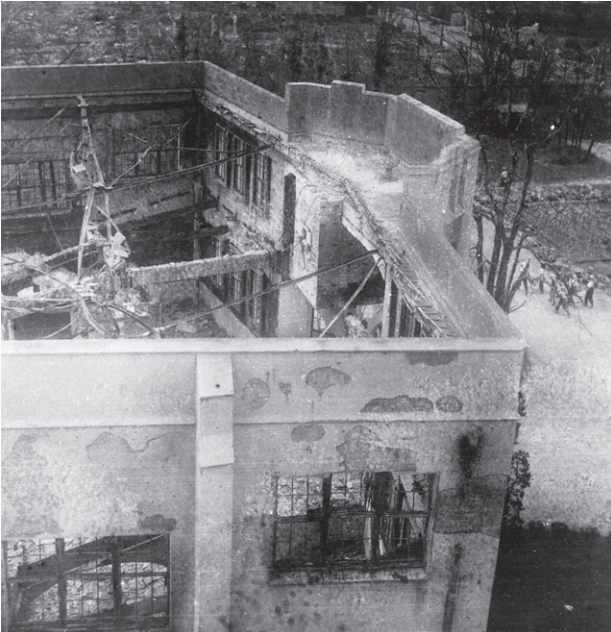
礼拝は出来たのですが、憲兵が立ち会って、太平洋戦争開戦後は、礼拝の前に宮城遙拝

をするようになりました。礼拝堂に集まると「起立！」「宮城に対し奉り最敬礼！」と体操の先生の号令がかかり、その後礼拝が始まりました。それが卒業までずっと続きました。

卒業後は、大手町にあった国際電気通信に挺身隊として入りました。当時、津田塾、東京女子大の2校しかとらなかつたところに入り、そのような方たちに伍してやらなければなりませんでしたから、最初の4か月本当に厳しい特訓を受けました。ところがまもなく婚約することになりました。私は田園調布教会の岡田五作牧師から昭和19年9月15日に洗礼を受けました。キリスト教に対する弾圧が厳しく、受洗者はたった一人、その頃は空襲が始まっていたから、空襲警報が鳴るたび防空壕に出たり入ったりして、非常に印象的な受洗式になりました。在学中は青山学院教会に行っておりましたが、夫となる犀川一夫が田園調布教会だったので、婚約と同時に移り、昭和19年12月15日に結婚式を挙げました。夫は医学校の後、軍医学校を出たばかりで、結婚式後3日目に出征、私は犀川の両親と結核を病んでいた弟と4人で暮らしました。すると、「珠子さんは結婚したけれど、ご主人が軍医でいってしまって、家にいるらしい」という話の流れで、国際電気通信や青山学院から、「家にいるんだったら、来てくれないか」とお声がかかりました。相談の結果、夫の父の「国際電気通信は大手町にあって、第一に爆撃を受ける場所だから青山が一番良い」との考えにより、青山にお勤めするようになりました。昭和20年春でした。

5月25日は、忘れもしない、私は、夜間大空襲の少し前に配給になった食べ物にあたり、嘔吐が激しく自宅の裏庭で気を失って倒れていたのです。数日後出勤しましたら、青山学院は大部分が焼けた後で女学部のプラット記念講堂の中には入れない状態でした。





昭和20年5月の空襲で被災したプラット記念講堂

次第に食料の配給も少なくなり、大豆などが配給になりました。脇屋先生が事務所にいらして、「今日の僕のお弁当はこれ」って背広のポケットから煎り豆を出してポリポリ、お茶を召し上がって、そんな時代でした。煎り豆は上等な方でした。そのうちに豚などの餌にしていたという油を搾ったカスが配給になり、ご飯代わりにそれを煎っていただくのです。お米は一粒も配給になりません。お米を焚いたら、一般的には銀飯と言ったのですが、銀飯なんて、いつ食べられるようになるのかなと思っていました。

校医の歯科医の先生が毎日のように女学部の事務所に立ち寄られて、中学部の様子を話してくれました。「今日は〇〇先生が。今日は2人しょっ引かれた。今日もまた疎開（留置場に入れられること）の先生がいて、今に中学部は授業が出来なくなる」などと申され、私たちは寒気を感じながら、その話を伺っていました。女学部には幸いにも一人もそのような先生はいらっしゃいませんでした。終戦後、先生方は解放されましたが、中には弱り果てて拘置所から出るのにも歩けず、這うようにしてこられた先生もいらしたとのことでした。

戦後の昭和21年6月7日、夫は奇しくも誕生日の夜中に亡霊のごとく帰ってきました。すると、国立のハンセン病療養所・岡山県の長島愛生園からすぐに電報がきました。「オイデマツ、スグコラレタシ」。夫はすでにハンセン病の医師

になる意を固めていましたから、すぐに行ってしまいました。まもなく夫から、「ナニモシンパイラス、スグコイ」の電報が来ました。青山を退職し夫の後を追う時、周囲の反対が多い中、青山の倉長部長先生、脇屋先生、神山先生があたたかく励まして送ってくださったことが有難かったです。

長島では、16年間、1700人の病者と共に過ごしました。その間に、念願であった特效薬プロミンが出現し、ハンセン病治療のありようも自ずと変えられるべきでした。しかし、日本ではなかなか制度が整わず、夫はそれを実行するために、医療宣教師として働く道を選び、昭和35年、台湾に行くことになりました。そこでわかった大切な話をしたいと思います。

日本の統治時代の台湾は、植民地でしたから、台湾のミッションスクール出の生徒は本土の高校受験資格が得られませんでした。そこで、阿部義宗先生と君子夫人が、卒業する前に生徒を自分の家に引き取って青山学院に通わせました。青山学院卒として、大学等への進学道を整えられた人たちがかなりいて、その人たちが阿部先生ご夫妻に恩義を感じて、是非、台湾にお招きしたいということになりました。それがきっかけで台湾に青山学院同窓会が出来たのです。医者や弁護士など、台湾の社会をリードするような立場になった方が多く育ちました。あまり知られていないと思いますが、阿部先生ご夫妻は、このように台湾の人たちを陰ながら支援していらしたのです。

(文責：青山学院資料センター)



昭和37年11月台湾に青山会誕生（写真は台湾北部地区青山会 中央：阿部義宗夫妻 2列目左から4人目：犀川珠子氏、最後列左端：犀川一夫氏）



## 『三戸吉太郎案 天地創造圖解 全』

立教大学大学院文学研究科教育学専攻 博士課程前期課程2年 望月 宏計

青山学院資料センター所蔵『三戸吉太郎案 天地創造圖解 全』は、三戸吉太郎が、日曜学校の子どもたちに天地創造の物語を教えるために考案した教材である。

三戸吉太郎（1867-1925）は、広島に生まれ、1887年、関西学院の創立者W.R.ランバスから受洗する。長崎鎮西学院（加伯利英和学校）から関西学院神学部へ転学、1896年に卒業し、その後、多度津、宇和島、岩国、御影の諸教会を歴任する。日曜学校での教育に尽力し、自ら教材をつくり子どもたちに精力的にキリスト教を教えた。

その一つがこの折りたたみ図である。表紙をめくり一場面ずつ開いていくと、天地創造の七日間の物語が現れる。すべて広げると右から左に神の御業が一日ずつ描かれ、教室の黒板に掲示するのにちょうどよい。

創世記の冒頭部分、天地創造の物語は、子どもにとって分かりにくいものであろう。聖書を読んだり、聞かされたりするだけでは、理解できないところを、三戸が図解して子どもの理解を助けよう、書かれていることのイメージをもたせようと試みたものと思われる。おそらくは、一日ずつ聖書箇所を読んで、一場面ずつ広げて見せていったのであろう。そのたびごとに子どもたちは、目の前に広がる絵の世界に引き込まれ歓声をあげたことだろう。

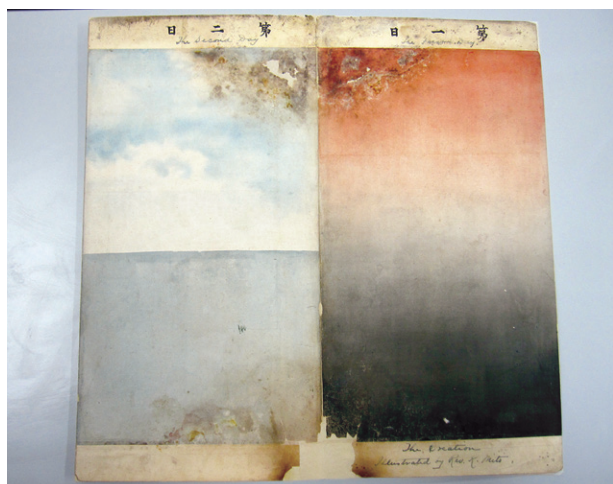
第一日、神は、闇に「光あれ。」と言われ、光があった。光を昼、闇を夜と呼ばれた。この場面の下余白には“The Creation. Illustrated by Rev. K. Mito.”と記されている。

第二日、神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。

第三日、神は地と海とを造られ、そこに草や木を芽生えさせた。



表紙：タイトル



左：第二日 右：第一日



左：第四日 右：第三日

第四日、天の大空に光る物を造られ、地を照らさせた。構図よく配置された太陽、月、星。太陽は大きく、オレンジの光を放って昼を治め、月と星は夜空に輝いて夜を治めた。

第五日、海には魚介、空には鳥を造られた。

第六日、神は、御自分にかたどって人間を造られた。アダムである。

第七日、神は休まれた。安息日には日曜学校が開かれる。この場面の<sup>上余白</sup>には、“Going to Sunday School.”と記されている。右にいる男の子の手には三戸の考案による「天使の聲」が描かれている。また、左の女の子も赤い同様のものを手にさげている。校舎の入り口では、教師らしき人が皆を出迎えている。三戸本人を描いたとも思われる。子どもだけでなく大人も通っていることが分かる。美しい絵である。

この「<sup>てんのつかひのこゑ</sup>天使之聲」は、1912（大正元）年発行のものを見ると、日曜学校へ通う時に持つ通い帳のようなもので、聖書の聖句、讃美歌、開校・閉校式次第、主の祈りなどが書かれている。適宜、そのページを開いて利用できるように考案されている。また、日曜学校でもらうカードを貼るためのページもあり、「勤怠計」といって時計を模した図に出席の記録をつけられるページも最後にある。

中身は16ページからなり、表紙は「天使の聲」というタイトルと挿し絵、裏表紙に子どもの記名ができる欄と挿し絵が書かれている。これも教材の一つと言える。

この『三戸吉太郎案 天地創造圖解 全』から見えてくることは、三戸の子どもに対する姿勢である。キリスト教を子どもに教えるためには、子どもをよく知り、子どもの心理や興味に沿った教え方を模索し、どのようにすれば子どもの関心を引き、理解を促すことができるかを考えている。そして、試行錯誤を繰り返して教材に自らの思いを結実させていく。そんな真摯な姿が見てとれる。繊細なタッチの描線、水彩による淡い色合いにも引き付けられる。



左：第六日 右：第五日



第七日



日曜学校に通う様子

<参考文献>

- ・小見のぞみ、2017、「三戸吉太郎とメソヂスト教会の日曜学校教育」、『神学研究』第64号、関西学院大学神学研究会
- ・三戸吉太郎編、1912、『<sup>てんのつかひのこゑ</sup>天使之聲』、春光社（国立国会図書館所蔵）



資料センター利用状況等 (2018年4月～2018年9月)

1. 月別利用者数 ( ) 内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
展示見学者数		300 (317)	193 (271)	602 (479)	327 (210)	854 (591)	225 (251)	2501 (2119)
資料閲覧者数		7 (14)	9 (19)	14 (19)	21 (11)	6 (6)	16 (13)	73 (82)
閲覧者の区分	本学学生	2 (0)	1 (0)	1 (4)	4 (1)	0 (0)	3 (1)	11 (6)
	現教職員	2 (5)	3 (2)	5 (4)	7 (2)	3 (1)	2 (4)	22 (18)
	旧教職員	0 (5)	1 (12)	0 (6)	3 (6)	0 (2)	6 (5)	10 (36)
	校友	1 (0)	1 (1)	1 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (2)	7 (7)
	他大学教員	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (4)
	牧師 一般	0 (0) 2 (1)	0 (1) 3 (2)	0 (0) 7 (3)	0 (0) 5 (1)	0 (0) 2 (2)	0 (0) 3 (1)	0 (0) 22 (10)
利用の目的	教会史編集	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	学校史編集	1 (5)	0 (9)	0 (6)	2 (4)	1 (1)	6 (4)	10 (29)
	著述・論文作成	3 (2)	6 (5)	5 (4)	7 (2)	2 (3)	6 (0)	29 (16)
	伝記資料調査	0 (1)	1 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	7 (2)
	記録類の調査・研究	1 (4)	1 (3)	1 (4)	4 (2)	1 (0)	0 (0)	8 (13)
	その他	2 (5)	1 (2)	6 (5)	6 (3)	0 (2)	3 (9)	18 (26)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	3 (12)	3 (16)	10 (15)	7 (9)	2 (5)	7 (9)	32 (66)
	メソジスト教会関係 (B)	2 (2)	2 (3)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	6 (6)
	英語・英文学関係 (F)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	明治期キリスト教関係 (G)	1 (0)	4 (0)	3 (2)	2 (0)	1 (0)	3 (2)	14 (4)
	一般分類図書	1 (0)	0 (0)	1 (2)	9 (2)	2 (1)	5 (1)	18 (6)
	その他	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	17 (24)	35 (33)	45 (47)	54 (16)	17 (21)	29 (38)	197 (179)
	マイクロフィルム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	写真 (含ネガ)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (5)
	アルバム	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (2)	6 (2)
	個人資料ファイル	0 (0)	0 (10)	0 (3)	1 (2)	3 (1)	0 (0)	4 (16)
	ビデオ・DVD等	1 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (1)	3 (5)
	その他	0 (2)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	3 (6)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 ( ) 内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
件数		2 (8)	9 (9)	6 (5)	9 (10)	6 (4)	9 (5)	41 (41)
質問者の区分	学生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)
	現教職員	0 (4)	2 (4)	3 (3)	5 (8)	2 (2)	3 (3)	15 (24)
	旧教職員	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)
	校友	0 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (0)	2 (2)	5 (5)
	一般	1 (3)	6 (5)	2 (1)	3 (0)	3 (1)	4 (0)	19 (10)
質問内容	文献所蔵調査	0 (1)	4 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (3)	0 (1)	8 (9)
	写真所蔵調査	0 (1)	1 (2)	0 (3)	1 (2)	3 (0)	0 (1)	5 (9)
	事項調査	2 (6)	4 (3)	2 (1)	5 (6)	3 (1)	8 (3)	24 (20)
	その他	0 (0)	0 (3)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (0)	5 (4)

3. 日誌抄



4月

- ・展示ホール、グループ見学5件
- ・歴史資料館検討WGにて早稲田大学資料館見学
- ・青山学院の歴史を語り合う会「1964年東京オリンピックと青山学院」開催
- ・大学教員の授業で学院の歴史について講義を行う
- ・大学、女子短期大学の授業で学生展示見学
- ・資料センター職員、新人研修のため構内案内
- ・他部署主催会議に出席 2回
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため 1回
- ・150年史編纂事務定例打合せ
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 11回

5月

- ・展示ホール、グループ見学1件

- ・芝浦工業大学公開講座の講師補佐
- ・史学科特別展開催に伴う展示室下見
- ・展示室ピクチャーレール取付
- ・書庫内書棚突起部是正工事
- ・歴史資料館検討WG打合せ会開催
- ・第1回資料センター運営委員会開催
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため 1回
- ・150年史編纂事務定例打ち合わせ
- ・大学教授来室、150年史編纂のため12回

6月

- ・展示ホール、グループ見学5件
- ・学業・就職説明会 (大学の保護者対象) のため展示ホール公開時間延長 (2日、9日・土)
- ・キャンパス見学会 (大学1年生の保証人対象) のため展示ホール公開時間延長 (16日・土)
- ・歴史資料館検討WGにて國學院大學博物館見学
- ・文学部史学科創設50周年記念展示「史学科50年の歩み」

- 開催 (6/25~8/5)
- ・蔵書点検作業 (一般図書、貴重書庫)
- ・展示検討小委員会開催
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・人事部主催管理職研修会に出席
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため 1回
- ・150年史編纂のためのヒアリング 1回
- ・150年史編纂事務定例打合せ
- ・150年史編纂本部・編纂委員合同会議開催
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 13回

## 7月

- ・展示ホール、グループ見学 3件
- ・院長就任式に出席
- ・展示ホール入口院長挨拶文パネル架け替え
- ・人事部主催サーバント・リーダー育成プログラム研修会講師
- ・ハラスメント防止研修会に参加
- ・女子短期大学資料整理打合せ
- ・クラウド型収蔵品管理システム説明会開催
- ・展示室7閲覧用モニター交換設置 (相模原キャンパスより転用)
- ・特別展示学内関連部署への協力要請

- ・展示検討小委員会開催
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』18号発行
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため 4回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 21回

## 8月

- ・展示ホール、グループ見学 1件
- ・大学オープンキャンパスのため展示ホール公開 (3日~5日)
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会 (東京芸術大学) に参加
- ・米山梅吉記念館へ特別展示の資料借用のため訪問
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 4回

## 9月

- ・展示ホール、グループ見学 1件
- ・歴史資料館検討WG勉強会 (講師: 広島大学小池聖一教授)
- ・青山学院防災訓練に参加
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・展示検討小委員会開催
- ・大学同窓祭のため展示ホール公開 (23日・祝日)
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため 5回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 9回

## 2018年度前期受入れ

## 資料

(学内部署からの資料は除く)

## 寄贈

- 慶松芙美子(校友)様 初等部卒業証書 昭和35年3月
- 余語悦子(校友)様 中等部卒業証書 昭和25年3月、高等部卒業証書 昭和28年3月
- 小林葵(校友)様 通学定期乗車券 学小「大森⇄神宮前」1968年9月~12月、初等部児童手帳 1968年度、中等部卒業式次第 1972年3月 ほか多数
- 大村修文(校友・元高等部部長)様 『今なぜ宗教改革か-宗教改革500年』大村修文著 2017年7月
- 設楽淳二(校友)様 「ボクの東京オリンピックあらいざらい」設楽淳二著 [2018年]
- 黒沼健(校友・大学名誉教授)様 中等部礼拝の栞 1959年4月、青山学院キリスト教講演会お知らせ 昭和38年・1965年 各1
- 女子短期大学同窓会様 『青山学院女子短期大学同窓会会報』第44春号 2018年4月、第44秋号 2018年10月
- 大橋弘(校友)様 『風のうながし』大橋弘著 2018年4月
- 吉岡勝見(校友)様 『グリーンハーモニーOB NEWS』No.57 2018年4月
- 柏崎節子様 『ウィルソン姉妹-弘前女学校第6代、第9代校長-』柏崎節子著 2018年4月
- 玉井厚様 『東北社会福祉史研究』第36号 2018年3月
- 株式会社アイビー・シー・エス様 『IVYCS通信 -アイビックス通信-』第138号 2018年5月、第139号 2018年6月
- 中村早苗(校友・元教員)様 白戸道子姉葬送式次第 2018年5月、「米国のメソジスト監督教会女性海外伝道協会によるデイ・スクールの教育活動」中村早苗著 (『キリスト教史学』第72集抜刷 2018年7月) ほか1点
- 近藤寿子様 レコード「キリストに生きる -十二人の証人たち-」1963年9月
- 中塚淑子(校友の親族)様 『RAFU SHIMPO』(阿部義宗の訃報記事あり) 1980年3月14日
- 長井明(校友)様 『KOALAS 1』平澤弥一郎編 昭和29年4月、『KOALAS 2』平澤弥一郎編 昭和30年5月
- 株式会社東奥日報様 「母の日広めた母 弘前に 米国出

- 身ファニー女学校長」(東奥日報新聞) 2018年5月13日
- 鶴飼栄子(校友)様 『微笑みをつないで』鶴飼栄子著 2018年5月
- 徳永勉(校友)様 戦前の北寮(2番館 Robert Alexander 宣教師夫妻が住んでいた)の写真(次頁写真①) 2種
- 大島力(大学教授・学院宗教部長)様 『マタイによる福音書』(新翻訳事業パイロット版) 2017年9月
- 笹森建英(校友)様 緑岡初等学校修了證書(電子複写) 昭和18年3月
- 大草敏郎(校友)様 青山学院國劇研究部公演パンフレット、案内(次頁写真②) 昭和31年~38年 8点、青山学院國劇研究部公演台本「伊勢音頭恋寝刃」年月日不明 ほか計4点、間島記念図書館図書閲覧券 昭和31年(次頁写真③) ほか多数
- 斎藤水樹子(校友・職員)様 大学理工学部創立30周年記念カレンダー電卓 1995年10月ほか資料1点
- 武藤元昭(校友・大学名誉教授・元大学学長)様 高等部卒業証書授与式次第 昭和32年3月、高等部教職員全員写真 昭和44年、大学卒業記念品(オルゴール付き電話受話器台) ほか2点
- 高等部同窓会様 『青山学院高等部同窓会報』75号 2018年6月
- 佐藤晟雄(校友)様 「わたしのスケッチブック(15)」佐藤晟雄著 2018年7月
- 暮しの手帖社様 『フジコ・ヘミング14歳の夏休み絵日記』フジコ・ヘミング著、2018年6月(次頁写真④)
- 戸田隆也(校友・職員)様 青山学院校舎新築落成記念絵葉書 合資会社清水組 1926年11月
- 金井和夫(校友の親族)様 青山学院教会 教会学校クリスマス写真 1935年、専門部寄宿舎前写真 1936年、金井次夫(校友)旧蔵スクラップブック 昭和8年頃(次頁写真⑤) ほか1点
- 米山梅吉記念館様 『信念に、生きる。隸属から自立へ』阿部志郎(校友、大学名誉博士)著 2018年6月
- 下河邊史郎(校友)様 「海外遠征登山計画書」青山学院大学体育会山岳部 2018東ネパールWhite Wave登山隊、『緑ヶ丘通信No.117号』青山学院大学山岳部OB会 2018年4月
- 大学文学部英米文学科同窓会様 会報『Aoyama Sapience』第39号 2018年7月
- 仲清次(校友)様 額入り写真 クリスマスツリー (1983年、1984年)・大学礼拝堂・正門・点火祭 ほか2点
- 関田寛雄(校友、大学名誉教授)様 青山寮クリスマス祝会パンフレット 2013年 ほか1点
- 麻生英臣様 William Campbell宣教師夫妻の資料(略歴、



新聞記事等) 6点 ほか1点

- 半田より子(校友)様 『青山学院緑岡幼稚園創立80周年記念誌』 2018年6月
- 高橋和子(校友)様 『中学新音楽1』 昭和30年2月 ほか2点
- 他大学・学校 年史・紀要類多数

## 購入

- 『破耶叢書第壹集』神崎一作編 哲学書院 1893年(写真⑥)
- 『伏屋の曙』座古愛子著 警醒社書店 1912年(写真⑦)
- 『苦學獨歩異郷之客』星野徳治著 警醒社書店 1903年(写真⑧)



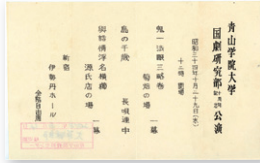
写真①戦前の北寮



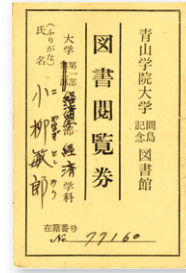
写真②青山学院国劇研究部公演パンフレット



写真②国劇研究部鑑賞券



写真②国劇研究部公演案内



写真③間島記念図書館 図書閲覧券



写真④『フジコ・ヘミング 14歳の夏休み絵日記』



写真⑤スクラップブック



写真⑥『破耶叢書第壹集』



写真⑦『伏屋の曙』



写真⑧『苦學獨歩異郷之客』

## 青山学院資料センター利用案内

### ●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。  
公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00 (入館は16:30まで)  
土曜日 ▼9:30～13:00 (入館は12:30まで)

※特別展示「青山学院を支えたサーバント・リーダー  
～米山梅吉・はる、間島第彦、  
万代順四郎～」を開催中です。  
(12/22(土)まで)

※恒例の押絵雑を展示します。  
(期間 2019年2月中旬～  
4月下旬)



特別展の様子

### ●休室日

日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他学院が定める休日  
年末年始休業期間<12/25(火)～1/4(金)>

### ●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間 (いずれも昼休み11:30～12:30)

月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

### ●問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
間島記念館2階 青山学院資料センター  
TEL 03 (3409) 6742  
FAX 03 (3409) 8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp  
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。

<http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

## 資料センター運営委員

院長(職務上)	山本与志春
常務理事1名(職務上)	楯 香津美
学院宗教部長(職務上)	大島 力
大学図書館長(職務上)	近藤 泰弘
大学 教員1人	小林 和幸
女子短期大学 教員1人	清水 康幸

高中部(高)	教員1人	佐藤 隆一
高中部(中)	教員1人	森田久美子
初等部	教員1人	窪田 靖
幼稚園	教員1人	矢部 尚子
総局長(職務上)		石黒 隆文
資料センター事務長(職務上)	岩本 智実	

## 資料センタースタッフ人数

資料センター事務：  
専任 3人 派遣 1人  
パートタイム 3人  
(週3日：2人、週5日：1人)  
『青山学院150年史』編纂事務：  
有期職員 2人  
パートタイム 2人  
(延べ週4日)

# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 19号

青山学院資料センター編・発行  
2018年12月14日発行

